

SABS Journal No. 89

発行日 2017年3月21日(火)

URL <http://www.sabsnpo.org>

このジャーナルはもともとバイオテクノロジー標準化支援協会(SABS)内部向けのものでしたが、数年前から、少しでもバイオテクノロジーに、ご関心のありそうな方々に向けても配信をしております。ご興味のない方は返信して配信不要の旨をお知らせください。

前理事長の奥山典生都立大名誉教授が一昨年夏急逝されるまでこのメールマガジンでは毎回様々な分野にわたり、奥山先生が次から次へと溢れる蘊蓄を披露されて居られました。その後、奥山先生のご遺志を継ぎ協会を続け発展させて行こうと定例会では会員の方々が毎回次々といろいろな方々のご専門の蘊蓄を傾けることで先生のご遺志を継ぎ、会員各位の親睦と勉強の一助となるよう努めて参りました。このジャーナルを読んで下さる方々は現在数百名に上ります。ぜひ読者の中からも話題提供をして下さる方が出てきて頂けることを期待しています。このメールに返信して頂ければ幸いです。ご感想、エッセイなどもお待ちしております。

1) 昨日・今日・明日

今冬は寒い日が続きましたが、ようやく日差しも風も春めいてきました。全国的には未だ雪が降ったり、世界的には殆ど雨の降らない南米ペルーが大雨で洪水が起こったり、やはり“異常気候”ですね。温暖化はあり得ないなど言い張る人物が最も大量の温暖化ガスを排出している国アメリカの大統領に就任してしまってそろそろ数カ月です。一方、我が国では最近のテレビ新聞など専ら東京都、内閣、近隣の国々などのニュースで満ち溢れてしまい、アメリカのニュースがめっきり減ってしまいました。それでも彼の地では「悪政」が着々と進んでいるようです。先月も書きましたが、本来環境を守るためのお役所 EPA (Environmental Protection Agency 環境庁) の長官として逆の主張をしてきた人物が議会の承認を得ています。我々 fact を求める研究者は、こうした AntiFact やら AntiScience の話は早く終わって欲しいと願うばかりです。

「医学と生物学」誌復刊について

先月(2/24)に有志で「医学と生物学」復刊準備会(仮称)を開き、概ね以下のような事柄を話し合いました。

まずこれまでの準備経過についてです。旧委員会は奥山典生先生と荒尾、小林、川崎の3氏で構成されておりました。3氏のお話によると、実際の活動としては、財団法人緒方医学化学研究所で「医学と生物学」誌を発刊していた医学生物学速報会の休刊時の会長だった只野壽太郎先生にお話を伺ったのがほぼ唯一であったとのこと。平成25年6月号で休刊した「医学と生物学」は医学生物学速報会の会員(当時の会員名簿は只野先生が持って居られる筈)の投稿と会費で成り

立っていたこと。編集会議は雑誌の印刷屋さんのところに集まって行われたということでした。

次いで、復刊「医学と生物学」の概要について話し合いました。その結果、以下のような基本的合意を得ました：

1. 出版形態として基本的には奥山先生も考えて居られた **Web Journal** 形式とし、現在の **SABS** ホームページからアクセス出来るようにする。
2. 原稿は **Word** などの形で受け、既に川崎さんが昨年来試みつつあるような定まったフォーマットにはめ込む。
3. 原稿は当面、定例会でのお話をまとめた総説的なものを中心になるが、原著速報などを只野先生お持ちの当時の会員名簿などを使って、復刊を広く宣伝し、集めるように努める。
4. 印刷物（別刷りなど）は需要に応じ別途考える。
5. 今後検討すべき事として、ISSN 番号の取得、定款の一部改訂の可否、会費、査読や審査の方法など

こうした方針で出来るだけ早い時期に復刊第1号を出したいと考えています。皆さまからこのメールマガジンをご覧の皆さま方の中には「医学と生物学」の会員だった方々も大勢おられるのではないのでしょうか。ぜひご意見・ご批判・ご協力を頂ければ幸いです。よろしく願い申し上げます（連絡先：thiyama@athena.ocn.ne.jp）。

前回定例会（80回）の報告

前々回松本邦男先生のペニシリン開発史のお話の最後に戦後すぐに日本で世界に先駆け、ペニシリン加水分解酵素（ペニシリンアミダーゼ）の発見や、中間体の発見が相次いだにも拘らず、その後耐性菌に有効な誘導体の合成はイギリスなどに先を越され、我が国の製薬業界が遅れをとった理由についてディスカッションが大いに盛り上がりました。その中で、昨年来2度にわたって“みどりの香り“の研究のお話を伺った山口大学名誉教授 畑中颯和先生が、日本が遅れをとった理由として学際性の欠如によるのでは？と問題提起され、医学や生物学に化学がいかに大切かというお話をされたいということになり、今回は「研究余滴—研究の大事な落とし物」というタイトルでお話いただきました。

畑中先生は親交があったButenandt (1903-1995) は性ホルモンの構造決定でノーベル化学賞を受賞したドイツの生化学者ですが、もともとは生物学を専攻していて、Fabre (1823-1915) の昆虫記の中の沢山のオス蛾がメス蛾に群がる話を読んだとき、オス誘引物質の正体を知るため大変な苦勞をして、化学を勉強しなければならなかったというお話から始まりました。畑中先生はButenandtの晩年の昆虫フェロモンの研究には大量のカイコの提供などいろいろと貢献されたお話も伺いました。植物の2次代謝について様々な新たな経路を解明された業績については昨年来何度も伺ってきました。これまでこのような世界的研究を成し遂げられた上、80代半ばになられた現在も先生はお元気で2次代謝産物であるみどりの香りがヒトの官能/心理・生理に与える影響、いわゆる森林浴の効能について研究を続けて居られます。先生が京都大学から山口大学に赴任され、全くゼロに近いところから研究室を立ち上げた数々のご苦勞についてのお話は大変興味深いものでした。

＊ ＊

＊ ＊

＊ ＊

2) 第81回定例会のおしらせ。

バイオテクノロジー標準化支援協会 第81回 定例会

日時： 2017年3月24日(金) 14時00分 – 16時00分

場所： 八雲クラブ（首都大学東京同窓会）

演題： 「国産ペニシリン開発史」 III

演者： 神奈川工科大学名誉教授 松本邦男先生

参加費：無料

前回（1/27）は時間切れとなってしまった昨年来のお話の続きをお話し頂きます。先生の定例会資料「国産ペニシリン開発史」はPDFで77MBもある膨大なもので、未だお話されていない貴重な逸話などが楽しみです。

八雲クラブへの道順：

渋谷駅から井の頭通りの坂を東急ハンズ目指して上り、ハンズ建物を過ぎ交差点角を右に回って直ぐまた右に曲がるとハンズ裏搬入口になります。その隣の建物がニュー渋谷コーポラスです。入口奥のエレベーターで10階に上がり直ぐ右隣です（添付地図参照、赤丸印）。



＊ ＊

＊ ＊

＊ ＊

友人同士誘い合わせてご出席ください。出席するのが面倒な方はメールでご意見をお寄せください。お待ちしております。またぜひ「昨日・今日・明日」にもご投稿ください。内容・字数は自由です。

また話題提供も大歓迎です。時間は 2 時間程度ですが短くても長くても（この場合は 2 回以上に分けますが）また内容も自由です。ぜひ皆さまのご参加をお待ちして居ります。

＊ ＊

＊ ＊

＊ ＊

ホームページ <<http://www.sabsnpo.org>> に e-library のリストがあります。会員の方はその中からご希望のものをご指摘ください。

- ① 配信停止・中止希望の方、
- ② 配信先等、登録情報変更希望の方、
- ③ バイオテクノロジー標準化支援協会に新規会員登録を希望される方は、このメールに返信して、その旨お知らせください。こちらよりご連絡差し上げます。
- ④ ウェブサイトに関するご意見も返信にて頂ければ幸いです。

(NPO) バイオテクノロジー標準化支援協会

〒173-0005 東京都板橋区仲宿 44-2

E-mail sabs.elibraly.i@gmail.com ; URL <http://www.sabsnpo.org>.

理事：荒尾 進介；小林英三郎；田坂 勝芳；松坂 菊生；檜山 哲夫

監事：堀江 肇

ネット管理：川崎 博史、田中 雅樹